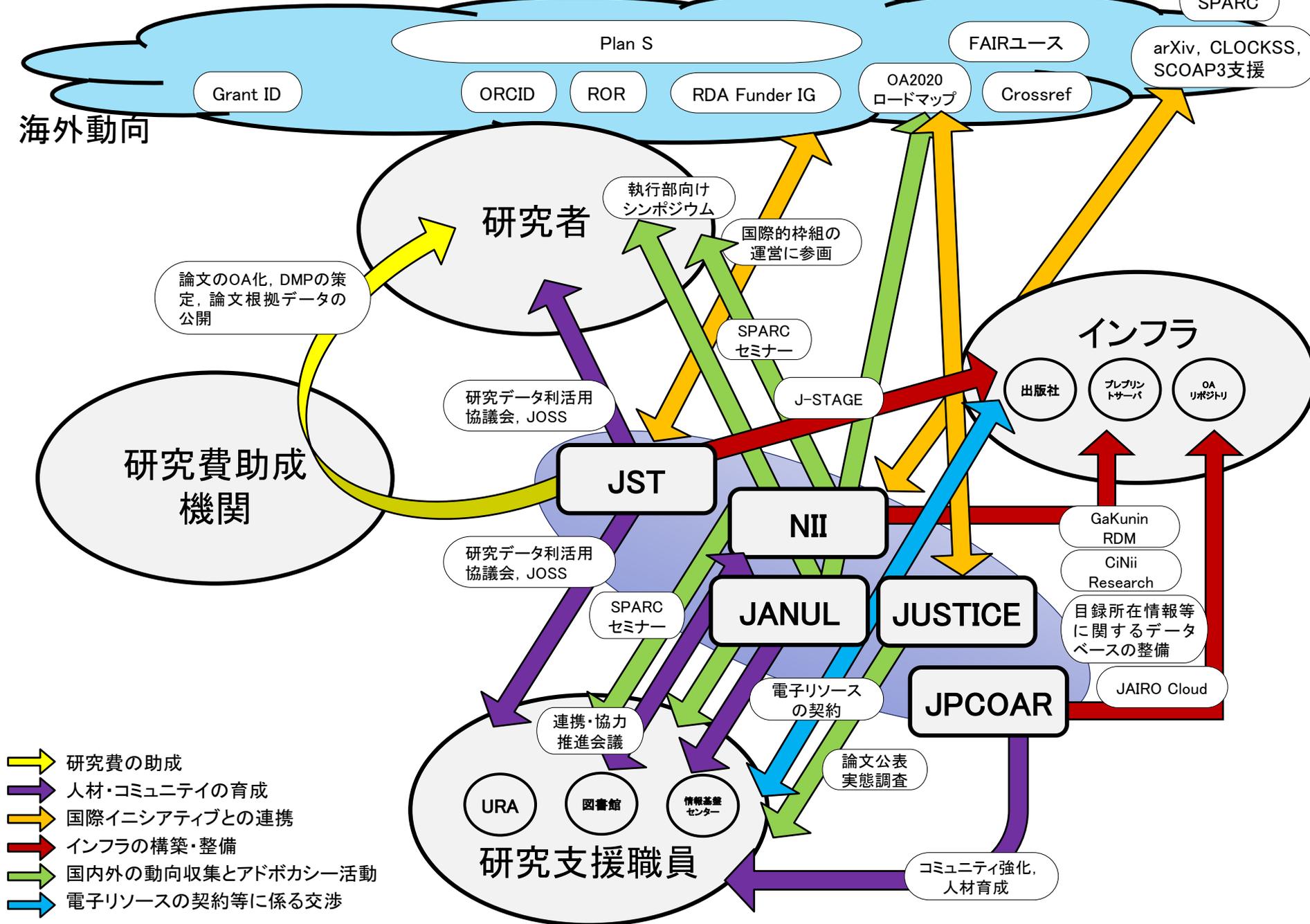


① ポジションペーパー(取組み)俯瞰表(案)

ポジションペーパー(取組み)俯瞰図(案)を表形式に整理したもの

<p>人材・コミュニティの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JANUL <ul style="list-style-type: none"> ・オープンサイエンスへの国大図協会館の取り組みを支援するための人材育成 ・先導的事業の推進を柱とした行動計画の策定 ●JPCOAR <ul style="list-style-type: none"> ・オープンアクセスリポジトリを支えるコミュニティとしての機能を強化, 人材育成 ●JST <ul style="list-style-type: none"> ・国内コミュニティ育成支援(研究データ利活用協議会, JOSS) ●NII <ul style="list-style-type: none"> ・「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下のコミュニティへの支援 	<p>国内外の動向収集とアドボカシー活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JANUL <ul style="list-style-type: none"> ・学術雑誌オープンアクセス(OA)化の動向に関する情報の収集と発信 ・オープンサイエンスへの国大図協会館の取り組みを支援するためのアドボカシー活動 ・大学執行部層等と課題を共有して解決策を議論するシンポジウム等を企画・実施 ●JUSTICE <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の学術情報流通の実態・動向に係る調査(論文公表実態調査)の提言 ・ゴールド・オープンアクセスを推進するOA2020の実現可能性の検証 ●NII <ul style="list-style-type: none"> ・学術情報流通推進委員会の開催 ・学術情報の公開や利活用の推進をテーマとした, SPARC Japanセミナーの実施 	<p>インフラの構築・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JPCOAR <ul style="list-style-type: none"> ・機関リポジトリ(学術情報流通の基盤)を整備して, コンテンツの流通, 活用を促進 ・機関リポジトリを活用した研究データの公開, 流通に関する先導的な取組みの実施 ●JST <ul style="list-style-type: none"> ・国内学協会・学術機関が発行する学術論文誌等のオープンアクセス化支援, 国際発信力強化支援, 国際動向対応支援 ●NII <ul style="list-style-type: none"> ・研究データ基盤について, 要求定義や開発仕様を策定し, システム開発を行う。 ・オープンサイエンスに資するための研究データ基盤に関わる事項を推進するセンター等を設置 ・目録所在情報等に関するデータベースの整備を中心に, 今後の学術情報システムのあり方を検討
<p>研究費の助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JST <ul style="list-style-type: none"> ・ファンド事業におけるオープンサイエンス促進に向けた取組(論文のオープンアクセス化, データ管理計画の策定, 論文根拠データの公開) 	<p>国際イニシアティブとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JST <ul style="list-style-type: none"> ・研究データ利活用に関する国際的枠組の運営(RDA Funder IG) ・識別子に関する国際イニシアティブ運営への参画(Crossref, Grant ID, ORCID, ROR等) ●NII <ul style="list-style-type: none"> ・arXiv・CLOCKSS・SCOAP3等, 国際的なイニシアティブとの連携 	<p>電子リソースの契約等に係る交渉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JUSTICE <ul style="list-style-type: none"> ・電子ジャーナル等の電子リソースに係る会員館の購読契約の基本条件の交渉を担う

ポジションペーパー(取組み)俯瞰図(案)



- ➡ 研究費の助成
- ➡ 人材・コミュニティの育成
- ➡ 国際イニシアティブとの連携
- ➡ インフラの構築・整備
- ➡ 国内外の動向収集とアドボカシー活動
- ➡ 電子リソースの契約等に係る交渉

② ポジションペーパー(課題)俯瞰表(案)

<p>人材・コミュニティ形成・その他リソース</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JANUL <ul style="list-style-type: none"> ・JPCOAR及びJUSTICEの安定的な運営体制に必要な財政的, 人的資源の確保 ●JUSTICE <ul style="list-style-type: none"> ・新たなタスク(論文公表実態調査やOA2020への対応検討など)を担う作業部会委員の確保が年々厳しくなりつつある ・新規事業(論文公表実態調査やバックファイル購入など)を行うための予算がない 	<p>国内外の動向収集とアドボカシー活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JUSTICE <ul style="list-style-type: none"> ・各機関の契約状況等実態の共有ができないことから, 他のステークホルダーへの説明が難しい ●JST <ul style="list-style-type: none"> ・研究者(研究成果の創出者であり利用者である)の参画を, より促進する必要がある ●NII <ul style="list-style-type: none"> ・研究データの管理, 共有, 公開についての具体的な事例の形成, 収集 ・デジタルアーカイブ, 研究データなどオープンアクセス, オープンサイエンスに関するメタデータ流通の高度化, 多様なメタデータ間の連携, ナレッジグラフ形成, オープン化 ・エビデンスデータに基づくOAやOSの推進, OA, OSのエビデンスデータ収集分析 ・OAやOSの推進のための人材育成 ・研究者コミュニティに対してSPARC Japanセミナーの広報・アピールが十分にできていない ・国際的なイニシアティブの支援について, 国内機関の支援・理解が得られていない ・世界規模で行われている調査等について, 国内機関の協力(貢献)ができていない 	<p>国内学術論文誌等の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JST <ul style="list-style-type: none"> ・オープンアクセス基盤の強化のための, 国内学術論文誌等のさらなる振興が必要
<p>電子リソースの契約等交渉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JUSTICE <ul style="list-style-type: none"> ・他のステークホルダーからゴールド・オープンアクセスに関する方針が示されていないため, 強力な交渉が進めづらい ・JUSTICEの体制・構造そのもの(オプトイン型, 任意団体)が一括契約や確約契約などより有利な交渉を進めるうえでの課題 ・JUSTICEの権限を強化するためには他のステークホルダーの支援(財政的・組織的)が不可欠 		<p>他部署, 他のステークホルダーとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JANUL <ul style="list-style-type: none"> ・図書館が他の部署や研究者と連携し取り組むための体制づくりが進んでいない ●NII <ul style="list-style-type: none"> ・国際的なイニシアティブとの間に, MOUの締結による形式以上の具体的な連携に至っていない ・SCOAP3, CLOCKSS, arXiv.orgを推進する体制の構築

③ ポジションペーパー(連携のあり方)俯瞰表(案)

ポジションペーパー(連携のあり方)俯瞰図(案)を表形式に整理したもの

<p>→ 大学(図書館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JANUL <ul style="list-style-type: none"> 国立大学協会と連携して、各大学執行部層へ情報提供や制度作りの働きかけを行う 学内(執行部, 研究推進部)に対するOAの動向の共有やAPC実態把握のための仕組みの協働を提案する ●JST <ul style="list-style-type: none"> ファンド機関と研究機関(研究者およびURA等の支援人材)が連携した新たなオープンアクセス・オープンサイエンス環境(エコシステム)の構築 オープンサイエンス時代を踏まえた研究評価体系の開発・導入 ●JUSTICE <ul style="list-style-type: none"> (電子ジャーナルの)購読費とOA支援経費の予算配分方法を検討してもらう (各機関における)OAポリシーを作成、公開してもらう 国際的なイニシアティブ(OpenAPC, ESAC Agreement Registryなど)への参加の検討してもらう 	<p>→ JPCOAR</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JUSTICE <ul style="list-style-type: none"> 代替学術出版プラットフォームとして機関リポジトリを整備する(PlanSへの対応等) 	<p>→日本学術会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JANUL <ul style="list-style-type: none"> 日本学術会議(学協会や研究者層)と連携して、オープンサイエンスへの取り組みや学術雑誌OA化の動向に関する課題の共有と方策を検討する ●NII <ul style="list-style-type: none"> 日本学術会議と連携して、研究者コミュニティへの情報発信や連携の在り方を検討する
<p>→ NII</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JUSTICE <ul style="list-style-type: none"> 論文公表実態調査におけるJUSTICEとの連携を継続する バックファイルのナショナルライセンス化のための連携を進める SPARCと、Big Deal Knowledge Base, Big Deal Cancellation Trackingなどの調査で連携する 	<p>→ JSPS</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JUSTICE <ul style="list-style-type: none"> OA支援経費助成を検討してもらう cOAlition Sへの参加の是非を検討してもらう 	<p>→国(文部科学省)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JANUL <ul style="list-style-type: none"> 国等に対して財政支援等の働きかけを行う ●JST <ul style="list-style-type: none"> オープンサイエンス時代を踏まえた研究評価体系の開発・導入
	<p>→ JST</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JUSTICE <ul style="list-style-type: none"> 代替学術出版プラットフォームとしてJ-STAGEを整備する(DOAJ, PlanSへの対応等) OA支援経費助成を検討してもらう cOAlition Sへの参加の是非を検討してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> データ共有を行い、OAやOS推進策を考えるための基礎データを作成、分析 連携して、若手人材育成・活動の場の提供 連携して、各機関で関係コミュニティ(特に研究者コミュニティ)に対するアドボカシー活動 日本学術会議なども加え、協調の対象を広く考えてはどうか 研究者コミュニティへの情報発信や協調を具体化 SPARCやSPARC Europeとの連携の在り方の検討
	<p>→ JUSTICE</p> <ul style="list-style-type: none"> ●NII <ul style="list-style-type: none"> JUSTICEと協力して、国際的な調査動向のフォローアップと、国内機関への周知・協力の呼びかけを行う <p>→全体(大学図書館, JPCOAR, JUSTICE, JST, NIIが連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●NII <ul style="list-style-type: none"> SCOAP3, CLOCKSS, arXiv.orgを推進する体制の構築 	

ポジションペーパー整理表

		取組み	課題		連携のあり方	
人材・コミュニティの育成	JANUL	オープンサイエンスへの国大図協会員館の取り組みを支援するための人材育成 先導的事業の推進を柱とした行動計画の策定	JPCOAR及びJUSTICEの安定的な運営体制に必要な財政的、人的資源の確保			
	JUSTICE		新たなタスク(論文公表実態調査やOA2020への対応検討など)を担う作業部会委員の確保が年々厳しくなりつつある			
	JPCOAR	オープンアクセスリポジトリを支えるコミュニティとしての機能を強化、人材育成	新規事業(論文公表実態調査やバックファイル購入など)を行うための予算がない	→ 大学(図書館)	大学図書館は協会の基盤コミュニティ。人材の供給と育成、知見の共有、OA及びOSのためのインフラ整備と運用等において緊密に連携	
	JST	国内コミュニティ育成支援(研究データ活用協議会、JOSS)	会員機関の増加に伴い、多様化するニーズの汲み上げ	→ 大学(図書館)	ファンド機関と研究機関(研究者およびURA等の支援人材)が連携した新たなオープンアクセス・オープンサイエンス環境(エコシステム)の構築	
	NII	「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下のコミュニティへの支援	新たな課題に取り組むための人材の育成、財源の確保			
国内外の動向収集とアドボカシー活動	JANUL	学術雑誌オープンアクセス(OA)化の動向に関する情報の収集と発信 オープンサイエンスへの国大図協会員館の取り組みを支援するためのアドボカシー活動 大学執行部層等と課題を共有して解決策を議論するシンポジウム等を企画・実施		→ 大学(図書館)	国立大学協会と連携して、各大学執行部層へ情報提供や制度作りの働きかけを行う 学内(執行部、研究推進部)に対するOAの動向の共有やAPC実態把握のための仕組みの協働を提案する	
	JPCOAR		海外の最新動向を把握し、適切なステークホルダーや基盤との国際連携を推進する体制の構築			
	JUSTICE	国内外の学術情報流通の実態・動向に係る調査(論文公表実態調査)の提言 ゴールド・オープンアクセスを推進するOA2020の実現可能性の検証	各機関の契約状況等実態の共有ができないことから、他のステークホルダーへの説明が難しい	→ NII	論文公表実態調査におけるJUSTICEとの連携を継続する	
	JST		研究者(研究成果の創出者であり利用者である)の参画を、より促進する必要がある			
	NII		学術情報流通推進委員会の開催	研究データの管理、共有、公開についての具体的な事例の形成、収集	→ JUSTICE	JUSTICEと協力して、国際的な調査動向のフォローアップと、国内機関への周知・協力の呼びかけを行う
			学術情報の公開や利活用の推進をテーマとした、SPARC Japanセミナーの実施	デジタルアーカイブ、研究データなどオープンアクセス、オープンサイエンスに関するメタデータ流通の高度化、多様なメタデータ間の連携、ナレッジグラフ形成、オープン化		連携して、若手人材育成・活動の場の提供
				エビデンスデータに基づくOAやOSの推進、OA、OSのエビデンスデータ収集分析	→ 全体(大学図書館、JPCOAR、JUSTICE、JST、NIIが連携)	連携して、各機関で関係コミュニティ(特に研究者コミュニティ)に対するアドボカシー活動 日本学術会議なども加え、協調の対象を広く考えてはどうか 研究者コミュニティへの情報発信や協調を具体化
			OAやOSの推進のための人材育成 研究者コミュニティに対してSPARC Japanセミナーの広報・アピールが十分にできていない		データ共有を行い、OAやOS推進策を考えるための基礎データを作成、分析 SPARCやSPARC Europeとの連携の在り方の検討	
		国際的なイニシアティブの支援について、国内機関の支援・理解が得られていない 世界規模で行われている調査等について、国内機関の協力(貢献)ができていない	→ 日本学術会議	日本学術会議と連携して、研究者コミュニティへの情報発信や連携の在り方を検討する		
インフラの構築・整備	JPCOAR	機関リポジトリ(学術情報流通の基盤)を整備して、コンテンツの流通、活用を促進		→ JANUL	国大図協オープンアクセス委員会と共同し、機関リポジトリの役割・機能要件を整理し、提言	
		機関リポジトリを活用した研究データの公開、流通に関する先導的な取り組みの実施		→ NII	JAIRO Cloudを共同運営し、オープンアクセス及びオープンサイエンスの基盤を提供	
				→ NII	JPCOARスキーマをNIIのIRDBに実装することにより、リポジトリコンテンツの流通を促進	
				→ NII	研究データ管理に関する教材を開発し、NIIの学認LMSを通じて公開	
	JUSTICE				→ JST	代替学術出版プラットフォームとしてJ-STAGEを整備する(DOAJ、PlanSへの対応等)
					→ JPCOAR	代替学術出版プラットフォームとして機関リポジトリを整備する(PlanSへの対応等)
	JST	国内学協会・学術機関が発行する学術論文誌等のオープンアクセス化支援、国際発信力強化支援、国際動向対応支援			→ JST	代替学術出版プラットフォームとしてJ-STAGEを整備する(DOAJ、PlanSへの対応等)
NII	研究データ基盤について、要求定義や開発仕様を策定し、システム開発を行う。 オープンサイエンスに資するための研究データ基盤に関わる事項を推進するセンター等を設置 目録所在情報等に関するデータベースの整備を中心に、今後の学術情報システムのあり方を検討					

ポジションペーパー整理表

		取組み	課題	連携のあり方	
研究費の助成	JST	ファンド事業におけるオープンサイエンス促進に向けた取組(論文のオープンアクセス化, データ管理計画の策定, 論文根拠データの公開)			
国際イニシアティブとの連携	JST	研究データ利活用に関する国際的枠組の運営(RDA Funder IG) 識別子に関する国際イニシアティブ運営への参画(Crossref, Grant ID, ORCID, ROR等)			
	JUSTICE			→ 大学(図書館)	国際的なイニシアティブ(OpenAPC, ESAC Agreement Registryなど)への参加の検討してもらう
				→ JST → JSPS	cOAlition Sへの参加の是非を検討してもらう
	NII	arXiv・CLOCKSS・SCOAP3等, 国際的なイニシアティブとの連携	SCOAP3, CLOCKSS, arXiv.orgを推進する体制の構築	→ NII	SPARCと, Big Deal Knowledge Base, Big Deal Cancellation Trackingなどの調査で連携する
		国際的なイニシアティブとの間に, MOUの締結による形式以上の具体的な連携に至っていない	→全体(大学図書館, JPCOAR, JUSTICE, JST, NIIが連携)	SCOAP3, CLOCKSS, arXiv.orgを推進する体制の構築	
電子リソースの契約等に係る交渉	JPCOAR			→JUSTICE	学術コミュニティ主体の代替学術出版プラットフォームとしての機関リポジトリの普及を通じ, JUSTICE のOA2020 ロードマップ推進に寄与
	JUSTICE	電子ジャーナル等の電子リソースに係る会員館の購読契約の基本条件の交渉を担う	他のステークホルダーからゴールド・オープンアクセスに関する方針が示されていないため, 強力な交渉が進めづらい JUSTICEの体制・構造そのもの(オプトイン型, 任意団体)が一括契約や確約契約などより有利な交渉を進めるうえでの課題 JUSTICEの権限を強化するために他のステークホルダーの支援(財政的・組織的)が不可欠	→NII	バックファイルのナショナルライセンス化のための連携を進める
学術情報の多様化や発信強化	JPCOAR		デジタルアーカイブ, 研究データなどリポジトリコンテンツの多様化への対応	→AXIES	RDM事例形成プロジェクトに協力
	JST		オープンアクセス基盤の強化のための, 国内学術論文誌等のさらなる振興が必要		
他部署, 他のステークホルダーとの連携	JANUL		図書館が他の部署や研究者と連携し取り組むための体制づくりが進んでいない		
ポリシーの作成	JUSTICE			→ 大学(図書館)	(各機関における)OAポリシーを作成, 公開してもらう
経費・予算	JANUL			→国(文部科学省)	国等に対して財政支援等の働きかけを行う
	JUSTICE			→ 大学(図書館)	(電子ジャーナルの)購読費とOA支援経費の予算配分方法を検討してもらう
				→ JSPS → JST	OA支援経費助成を検討してもらう
研究評価体系	JST			→ 大学(図書館)	オープンサイエンス時代を踏まえた研究評価体系の開発・導入
				→国(文部科学省)	オープンサイエンス時代を踏まえた研究評価体系の開発・導入